

氏名

学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1293 号
学位授与の日付	昭和57年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	変形菌による実験的ラット逆行性腎盂腎炎に関する研究 第1報 同一腎より病理組織標本と腎内全菌数の両者を得る試 み 第2報 胸腺退縮について 第3報 胸腺退縮に対する plasma corticosterone の影響 の検討
論文審査委員	教授 金政泰弘 教授 太田善介 教授 小川勝士

学位論文内容の要旨

実験的ラット逆行性腎盂腎炎において、クリオスタットを利用して同一腎より病理組織標本と腎内全菌数の両者を得ることを試みた。本法で得られた腎病理所見の Grade と腎内全菌数とはよく並行し、有用な方法であると考えられた。

実験的ラット逆行性腎盂腎炎において、特に腎皮質膿瘍を形成した群に胸腺の著しい退縮を認めた。そこでストレス学説にのっとり副腎との関与を追求するため、経日的に plasma corticosterone を屠殺測定した。

その結果、腎皮質膿瘍形成群で著明な胸腺重量の減少および副腎重量の増加を認め、胸腺重量と副腎重量とは逆相関し、副腎重量の増加は組織学的には皮質の肥厚であった。しかし、plasma corticosterone 値は腎病変の Grade および副腎重量と相関を認めず、目的とした胸腺重量および T-cell の機能として測定した脾細胞の ConA 幼若化反応とも相関を認めなかった。

従って、plasma corticosterone が本症における胸腺退縮の主因とは考えがたい結果であった。

論文審査の結果の要旨

本研究は、*P. mirabilis* による実験的ラット逆行性腎盂腎炎において、同一腎より病理組織標本と菌数測定を同時に行なう試みを成功させた。そしてこの独自の方法を用いて腎病変の精査を行ない、その結果と胸腺退縮との相関と機序の解明を試みて興味ある知見を得ており、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。